

PTAだより 第2号

大阪府立交野支援学校
PTA会長 石堂蘭子

夏休みも終わり、2学期がはじまりました♪

新型コロナウイルス感染症についてはまだ予断を許さない状況ではありますが、基本的な感染症対策をしっかりと取りつつ、子どもたちには、元気に学校生活を楽しんでほしいと思います。

PTA活動についても、例年通りとはいきませんが、できるところから活動していきます。
保護者の皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆報告☆

8月26日（金） 第65回全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
PTA・校長会合同研究大会「北海道大会」

“全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会”は、PTA相互の協調をはかるとともに、肢体不自由教育の向上発展を促進することを目的とした会です。

毎年夏に、全国の肢体不自由特別支援学校のPTAが参加し、各学校・地域での取り組みや情報提供・意見交換を行う会議を行っています。

今年度は集合開催ではなく、web会議システム「Zoom」でリモート開催されました。
役員で分かれて参加しました内容をご報告します。



基調講演

テーマ：特別支援教育の動向と肢体不自由教育への期待

講師：文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦氏

1) 肢体不自由校の現状

特別支援学校は年々増加に対し、肢体不自由単独校は平成22年からの10年で25校減少。
複数障がい種に対応した特別支援学校は、86校増加。そのうち肢体不自由教育を行う学校は81校増加。複数障がい種に対応した特別支援学校の中でも、肢体不自由と知的障がいの併置校が最も多く、併置校の中での割合は55.5%を占める。併置校では、どうしても知的中心の教育になりがちなので、専門性の担保をどう確保するかが課題。

2) 医療的ケア関係

特別支援学校のみならず地域の小・中学校においても医療的ケア児が増加傾向にある。令和3年に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されたことを踏まえ、文部科学省ではホームページにおいて医療的ケアの実施体制の充実を図る際の参考となる資料を掲載している。

3) 肢体不自由教育への期待と充実

視線入力装置などコンピュータ等の情報機器などを有効に活用していく。実際にゲームコントローラーを使用してコンピュータアートを作成した例などが紹介された。

分科会「福祉」

発表校：熊本県立熊本かがやきの森支援学校

『福祉制度の活用とPTAの情報共有』

1) 学校でのPTA活動について

熊本かがやきの森支援学校は平成26年4月に開校された肢体不自由児の特別支援学校である。昨年度のPTA活動はコロナ禍でほとんど中止となったが、十分な感染対策をした上で、11月に40名程の参加者で「ヨガ教室」「茶話会」を開催した。茶話会では、学部を超えた交流をし、日々の子どもの成長や悩みを先輩保護者から話をしたり、情報共有したりできた。PTA活動は、このような顔合わせや情報の共有は欠かせないことだと改めて実感したと報告された。

2) 関係者との情報共有について

「ケース会議」という、子どもを中心に、保護者、学校、相談支援員、放課後等デイサービス事業者、訪問看護、ヘルパー事業所、療育機関関係者等が一同に会し、子どもの様子や課題等を共有し、現在必要なこと、将来に向けて必要なことを情報交換・共有するための会議が開催されている。昨年度は70人の児童・生徒に41回の会議が開催されたということだった。

3) まとめ

この分科会に参加し、熊本かがやきの森支援学校の「ケース会議」のように、多職種の人たちが集まり、子どもの事を話し合える場というのは、他の学校にも取り入れられれば良いと思いました。そしてPTA活動というのは、単に会議だけではなく会員の皆さんが顔を合わせて話ができる人を増やすこと、また時代とともにZoomなどを使った非対面の活動もすすめていく必要があると感じました。

分科会「進路」

発表校：福島県立郡山支援学校

1) めざす子どもの姿

主体的に生きる、心豊かに生きる、健やかに生きる

2) キャリア教育の目標

将来の社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育成する

- ・学習内容を人生や社会の在り方と結び付け深く理解すること
- ・自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択すること

3) 各学部で育てたい力

- ・小学部：「自己理解」 人との関わり、夢・希望を持ち進路の探索や選択をする
- ・中学部：「自己肯定感」人間としての生き方、現実的選択 働くこと、学ぶこと
- ・高等部：「自己有用感」人間としての在り方、生き方、自己調整、社会人の自覚

4) 一人一人のキャリア形成と自己実現、自分らしい生き方の実現

- ・他者を尊重し多様な人々と協働していくこと
- ・自分のよさや可能性を認識すること
- ・様々な社会の変化を乗り越えること
- ・豊かな人生を切り拓くこと

5) まとめ

卒業後の社会生活に向けてのキャリア発達を促す支援については、保護者も教職員も意識の向上が必要であると感じています。豊かに社会生活を送ることができるよう、保護者、PTAとともに、キャリア教育の充実をめざしていきたいと思っています。

分科会「医療」

発表校：千葉県桜か丘特別支援学校

『摂食指導、災害対策、医療的ケアの3つの取り組みについての報告』

1) 摂食指導

給食を食事の学習と位置付け、目標・手立ての設定を行い、学校と家庭が同視点で指導に取り組めるようにしている。また、摂食外来の見学を担当が行ったり、医師による講演会を実施したりして、外部との連携を図っている。

2) 災害対策

東日本大震災の翌年度にPTA臨時特別防災委員会を立ち上げ、「防災備蓄品マニュアル」を作成。自分の子どもにあった物を各自が準備し、担任・養護教諭・看護師と確認、情報共有を行っている。食品に関しては、備蓄品BOX（被災後3日分）の他、非常用持ち出し袋・登下校時備蓄品（どちらも食事1回分）の3種類を準備している。パーソナルカード（通院先、服薬、水分の摂り方、コミュニケーション方法等を記入）と防寒用アルミ製保温シートを防水ポーチに入れ通学かばんに携帯するなど、色々な状況を想定した災害対策を行っている。

3) 医療的ケア

医療的ケア児の保護者への取り組みとして、医ケア保護者会（年1回）や、アンケートを実施している。また保護者同士のコミュニケーションをとるため、LINEのオープンチャットを開設（メリットー匿名で意見交換が出来る。デメリットー話題が無いとトークがしにくい。）加えて、全保護者対象の茶話会も実施し、先生や先輩保護者からのお話を聞ける対面での交流も大切であることが再認識できた。

分科会「機器」

発表校：石川県立いしかわ特別支援学校

『子どもたちの可能性を広げ生活を豊かにする情報機器等の活用どのように進めていくか』

1) 在宅訪問教育部の令和元年から令和3年度の3年間の取り組みの紹介

友だちと関わる機会の少ない児童生徒がオンラインで友だちと繋がり楽しく活動できるよう、家庭における機器を活用し、学校と連携している。

健康上の理由等で毎日登校することが困難な児童生徒を対象に、教員が週3日、自宅を訪問して1回120分の授業を行っている他、月1回程度のスクーリング（自宅を離れての学習）をする機会を設けている。

体調等の理由で年々スクーリングへの参加率が低下してきたため、登校が難しい場合は、自宅からオンラインで参加できるようにと令和元年度の2学期より準備を始めた。

各家庭のICT環境について調べると、当時の在籍児童生徒7名、全家庭にタブレット端末等のデバイスがありWi-Fi環境も整っていたので、訪問授業の際に家庭のタブレット端末にZOOMのアプリを入れて、全家庭でZOOMが使えるようにした。

オンラインを使った活動では、3月からの臨時休校に入ってからすぐ、卒業式がおこなわれた。

コロナ禍において、入学を祝う会、誕生会、クリスマス会、新年会などすべての行事はオンラインで開催され、授業では週2回程度オンラインで朝の会を行い、その日の本人の体調と保護者の都合が良ければ自由に参加できるようにした。

2) 成果 児童生徒がオンラインで友だちと繋がること

家庭と学校が協力し、連携した取り組みができたこと

コロナ禍においても安心して友だちと繋がることのできる方法を得たこと

3) 課題

今後繋がりを広げていくためには、多人数の参加の同意とプライバシー保護、個人情報保護に関する理解と共有化など考えていく必要がある

会員研修

テーマ：みんなが笑顔で暮らせるまちづくりを目指して

講師：特定非営利活動法人カムイ大雪バリアフリー研究所 就労継続支援事業所 チーム紅蓮

五十嵐真幸 氏

五十嵐氏は骨形成不全症のため、子どもの頃から車椅子を使用し生活されている。学生時代は家族友人のサポートがあり障がいを意識せず過ごしていたが、高校卒業後に就職するにあたり、車椅子を理由に断られ、障がい者へのバリアを認識する事になる。

障がいが様々な種類・程度があるように、できる事や好きな事も人それぞれである。好きな事ができる環境づくりを目指す＝「誰にもやさしいまちづくり」へ挑戦していく事になった。車椅子紅蓮隊を結成してのタウンウォッチング、障がい者へのサポート方法やバス・タクシー乗車に関する勉強会、レク・パラスポーツ大会やイベントの開催などを行い、地域の人達と一緒に活動していく事で、障がい者への理解が深まり、相互交流が生まれ、やさしいまちづくりにつながっている。

就労の問題に関しては、就労継続支援施設チーム紅蓮を立ち上げ、地域の事業所や仲間と協力し、各々にあった仕事を行っている（もの作り、パソコン作業、調査研究事業、軽作業など）。チーム紅蓮に通い始めた事で、楽しんで出来る仕事を見つけ、仲間との交流を通して、人生に前向きになった利用者もいる。

できない事にとらわれず、様々な事に挑戦していく事で可能性は広がっていく（もの作りができない→デザインやITでの発信はできる？/農業ができない→受注管理や収穫管理はできる？/スポーツができない→事務局や企画運営はできる？）。障がいがあるからできないではなく、それぞれ異なった視点で物事をとらえる事が出来ると考えることが大切である。



<参加後の感想>

普段は繋がることのできない、全国の支援学校の保護者の方や先生方と、とても貴重な意見交換の時間を持つことができました。

交野支援学校のPTA活動にすぐに取り入れられるものばかりではありませんが、より良いPTA活動をこれからもめざしていけたらと思います。

今後の予定

- 10月 6日（木） PTAグラウンド整備（予備日 10月20日（木）
（小学部4.5.6年と高等部の学年委員、全学年のグラウンド整備お手伝い係）
- 11月 2日（水） 11月PTA役員会・学年委員会・全体学年委員会
第1回指名委員会
第1回バザー実行委員会
- 11月26日（土） 紅葉祭